

令和元年度 前期学校評価課題分析について

京都市立下鴨中学校

今年度も、1学期末に実施致しました皆様からの学校評価を基に課題分析を致しました。この結果を受けて令和元年度京都市立下鴨中学校学校運営協議会理事会を12月5日（木）18：30より校長室にて開会し、3小学校区域内にご在住でいらっしゃいます学校運営理事の皆様とPTA役員そして学校代表者で本校の課題分析や検証した具体的内容を話し合わせていただきました。

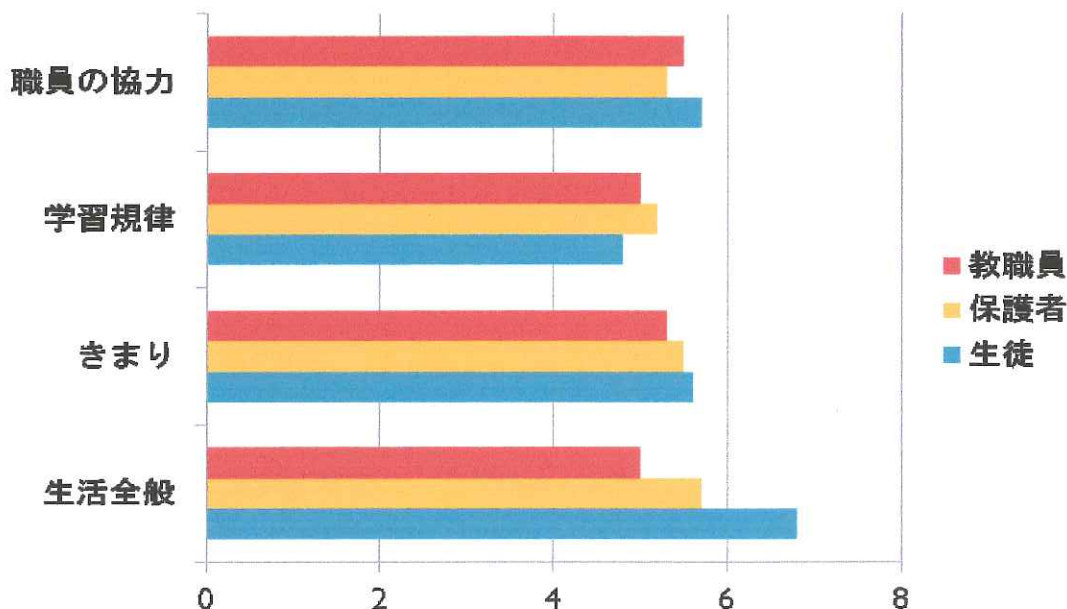
地域の観点から客観的にご指摘いただいた点は以下の通りです。

- ・挨拶をする生徒の声や表情が良い。校内に入ってもほとんどの生徒が外部から来た方々にそれができている。
- ・朝の遅刻が全学年共に増加しているように思い、基本的生活習慣の乱れや家庭生活での在り方を各地域では心配する声が多い。

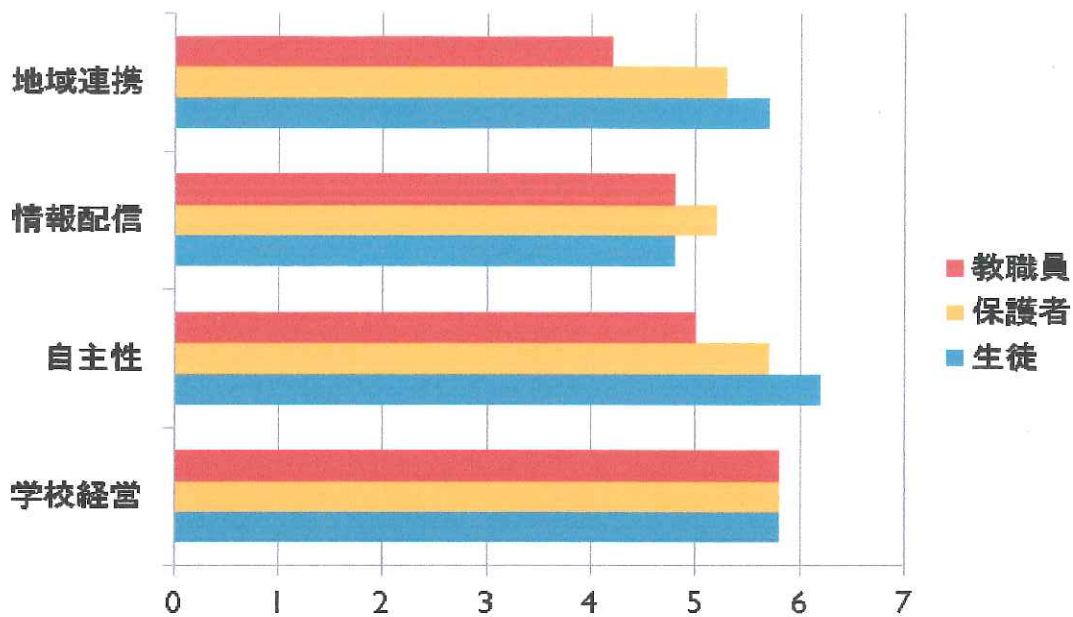
学校生活における重要な視点は、子ども達の学校教育目標を踏まえた日々の生活習慣や態度に表出されます。学校の指導のみならず、ご家庭での登校への送り出しやお声かけが一日の落ち着いた生活を作り出します。ご家庭でのご協力を今一度、宜しくお願い致します。そして私達の学校の有り様を見直し少しずつ、進歩・成長している面は向上させ、課題と観られる点を解決させるように努力してまいります。今後ともこれまで以上の学校教育へのご理解とご協力を重ねて宜しくお願い致します。

【評価の数値の出し方】生徒・保護者・教職員の三者の実現度を主に分析しています。実現度は「出来ている」「大体出来ている」「あまり出来ていない」の選択肢から回答いただき、それぞれ7～1点で換算し、人数で割ったものがここに示す数値です。評価が5を超えている項目は多くの方が「大体出来ている」と判断されることになります。三者の実現度が近いもの、またはかけ離れているものについては、重点的に見直しや改善を図っていきたいと考えています。

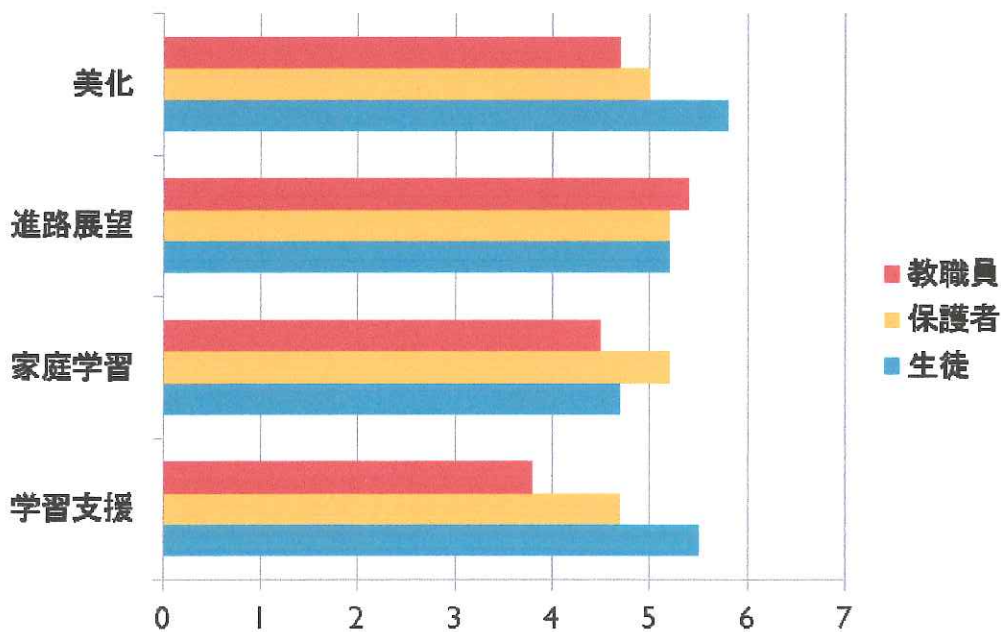
学校評価回収率 生徒98% 保護者88% 教職員 81%



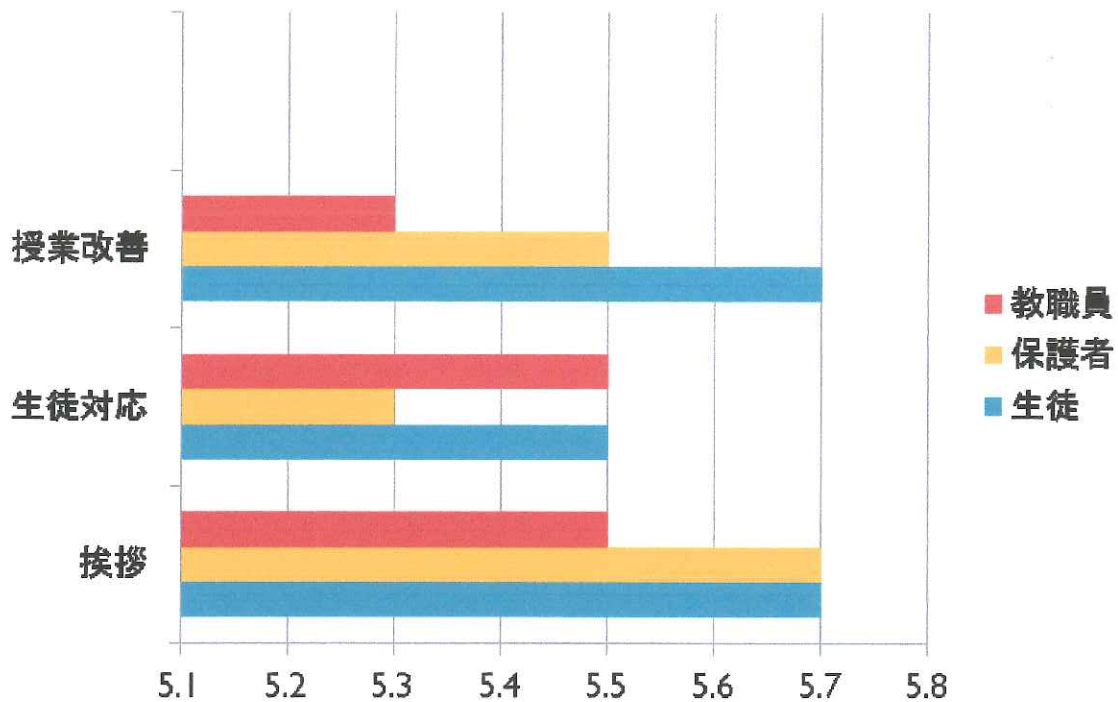
【魅力・特色】学校生活全般について、概ね楽しんで生活を送っている生徒が多数いるのは昨年度の比率より上昇していることは嬉しいことである。しかしながら、そうではないと思っている生徒の存在も忘れてはならない。学習規律についての生徒と保護者・学校の認識の相違点を今後もしっかり把握していききたい。



【現状維持】学校経営については、今年度カリキュラムマネジメントを主眼においた総合的な学習の時間や学校行事の内容の精選及び見直しを学校・PTA・地域共に取り組めた為、三者の実現度がほぼ理想に近い形として表出された。ただ、教職員の情報配信や地域連携については昨年度よりもさらに低下した割合になっている。今後も改革を進めるにあたり、意識した内容を構築していく。



【長期的課題】進路展望については、三者共に学びの共有ができており、本校が力を入れてきたキャリア教育の成果が徐々に結果を生み出しているものとする。学習支援は教職員として今一度改善策を考えたい。美化活動については、生徒と教職員の意識の相違に評価の観点や視点が異なる結果と踏んでいる。



【重点課題】生徒会を中心としたあいさつ運動が定着してきたこと、または地域や他校の教職員の方々、及びしばしば中学校訪問をされる高等学校や上級学校の教職員の皆様からも好評価を得ている。是非とも、下鴨中学校生徒の品格を感じさせる大変良い面であるので社会に出られても、維持してもらいたい。教職員の授業改善に観られる消極的な自己評価については、生徒・保護者の期待や満足に比べて努力邁進している結果だと見取っている。特に新しい学習指導要領に基づく主体的・対話的で深い学びについての基本的なとらえ方を全校体制で究め、進めていくことしかないと考えている。